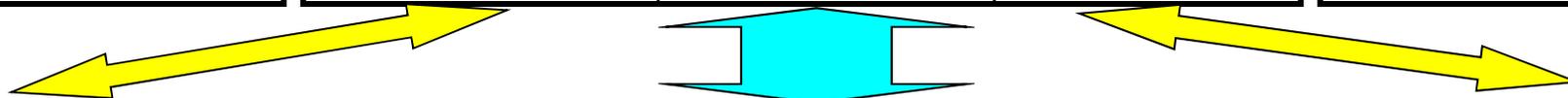


平成30年度 学力向上アクションプラン

B票

杭瀬小 学校

学力調査結果等から見た 学力向上についての課題	課題解決に向けた学校の取組(基礎力の定着、活用力の育成)			本年度の具体的な目標
	授業力向上への取組	学習習慣定着に向けた取組	その他の取組	
<p>○全国学力・学習状況調査において、「計画を立てて勉強をする」児童は53%であり、まだ、十分とはいえない。また、「予習をしている」「復習をしている」児童は、それぞれ32.4%、35.3%であり、主体的に家庭学習に取り組む力を育成する必要がある。</p> <p>○若手教員が増え、20代から30代前半の教員が約8割であることから学級経営力、授業力の向上が必要である</p> <p>○アクティブ・ラーニングの視点により、学び方や友だちとの関わりの中から認め合い、高め合う授業づくりに課題がある。</p>	<p>○招聘した授業モデル作成(読む能力の育成、活用と、言語活動の充実による思考力の育成を促す学習指導の方法を探る。【(1)講師招聘支援を活用】</p> <p>○月に1~2回、校内研修会を実施し、授業づくりや学級経営など様々なテーマで職員全体のスキルアップを図る。</p> <p>○「比較・分類・多面的・関連・構造化・評価」等の思考スキルを発達段階に応じて、段階的に学ばせる。そして、「自分の考えを明らかにして、伝え合う力を育成する授業の創造」をめざしていく。若手教員の授業改善につなげる。</p> <p>○授業改善アドバイザーの活用</p>	<p>○家庭学習ノート(自主学習ノート)に取り組ませ、自ら課題を発見、追究、解決する力を養わせる。</p> <p>○全学年で『家庭学習の記録』に取り組み、各学年に応じた家庭学習の時間と内容の充実を図る。</p> <p>○朝の帯時間を学習タイムとし、学年で計画的に課題に取り組み、基礎基本の定着を図るとともに、集中して学習に取り組む態度を育成する。</p>	<p>○3・4年生は復習を中心とした課題に取り組み、基礎基本の定着を図る。</p> <p>○5・6年生は、文章題や全国学力テスト等の過去問題に取り組み、活用力を高める。</p> <p>○各学年に応じて、読書量の目標を設定し、『読書貯金』を実施することにより、児童の読書活動の充実に取り組む。</p>	<p>○全国学力・学習状況調査</p> <p>(1)学力調査 平均正答率 国語A・算数A…全国平均以上 国語B・算数B…全国平均以上</p> <p>(2)質問紙調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「国語の授業がよくわかる」 80%以上 ・「課題に対して自ら考え、自ら取り組む」 80%以上 ・「家で自分で計画を立てて勉強する」 65%以上 ・「家で学校の授業の復習をしている」 55%以上



校種間連携	活用する支援内容		家庭・地域との連携
	支援内容	具体的内容	
<p>○オープンスクールなどに参加し、交流を図る。</p> <p>○小学校から中学校への円滑な接続を図るための児童に関する情報交換。中学校に上げるまでに必ず定着させておくべき基礎的な学力に関する共通理解を図る。</p> <p>○SSWを交えた小中学校教員合同での研修会を実施する。</p> <p>○夏季合同研修会を実施する。</p>	<p>(1)講師招聘支援</p> <p>(3)授業補助支援</p> <p>(4)放課後等学習支援</p> <p>(5)学力定着支援</p> <p>(6)地域人材活用支援</p>	<p>○関西大学初等部 松本京子先生(5回)を招聘して授業モデルを作成する。読む能力の育成と活用及び、言語活動の充実による思考力の育成を促す学習指導の方法を研究し、子どもが主体となる授業への改善を図り、授業力を高める。(3h×3回・2h×2回)</p> <p>①1・2年生の算数に指導補助員として、教職経験者を配置し、同室複数指導により、つまずきのある児童の支援を行い基礎・基本の定着を図る。</p> <p>①木曜日の放課後に3~6年生を対象に、宿題や復習を中心に取り組み、算数の基礎・基本の定着を図る。(2h×25週×1人)</p> <p>②木曜日の放課後に5・6年生を対象に、国語・算数のプリント学習に取り組み、自分で計画して学習できるようにする。(2h×25週×1人)</p> <p>○夏休みに3~6年生を対象に1学期の復習や全国学力・学習状況調査等の過去問題に取り組み、学力向上を図る。(2h×5日×2人)</p> <p>○授業改善に活かすための教具やワークシートを作成する。</p> <p>○学習支援に係る書籍代</p> <p>○読書週間にボランティア等による読み聞かせを行い、読書活動の充実を図る。(年間12人分)</p>	<p>○学校だよりやHPで学力向上アクションプランを明示するとともに、全国学力・学習状況調査等の結果を公表する。</p> <p>○『家庭学習の記録』及び『study plan』を実施し、一週間の児童の学習や生活の状況を家庭と連携して把握し、児童の意欲向上や家庭学習の習慣の確立を図る。</p> <p>○ノート検定を実施し児童・保護者に自主学習の方法について理解を深めるとともに、自分で計画して学習する意欲と態度を育てる。</p> <p>○地域学校協働活動コーディネーターと連携し、補充学習を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・月2回土曜日と夏休みに自主学習の場として図書室を開放する。 ・地域で月2回実施されている杭瀬食堂や杭瀬寺子屋を自主学習の場として活用する。 <p>○家庭学習の取組や生活習慣に関する実態調査を行う。</p>